

平成21年度 JCOMM賞の受賞者発表

JCOMM
AWARD

JCOMM実行委員会では、平成21年4月10日までにご応募・ご推薦をいただいた取り組み・研究について、厳正に審査し、プロジェクト賞2件、デザイン賞2件、技術賞1件をそれぞれ平成21年度JCOMM賞として選定いたしました。対象者には、第四回JCOMMにて表彰を行います。また、会期中には受賞内容の展示も行われます。

JCOMM AWARD プロジェクト賞

「倉敷・水島コンビナート・エコ通勤実証実験の取り組み
～大規模事業所8社を対象としたエコ通勤に向けた取り組み～」

水島コンビナート・エコ通勤検討協議会事務局
(倉敷市建設局都市計画部交通政策課・(株)オリエンタルコンサルタンツ)

「大学生による富士市特定バス路線の利用促進策とその効果分析」
南山大学石川研究室・富士市役所都市計画課

JCOMM AWARD デザイン賞

「名チャリマップおよび名チャリVI」
名チャリプロジェクトチーム(牧野暁世・橋口萌・堀田智世・小沢千晴)

「『バスマップ沖縄』紙版マップ及びWebサイト」
谷田貝哲・気候アクションセンターおきなわ

JCOMM AWARD 技術賞

「先進的オンデマンドバスシステムの開発と評価」(受賞研究業績＝坪内孝太, 大和裕幸, 稗方和夫: 過疎地における時間指定の出来るオンデマンドバスシステムの効果, 日本ロボット学会誌Vo.27, No.1, pp.115-121, 2009他)

坪内孝太, 大和裕幸, 杉本千佳, 稗方和夫, 下村淳一, 吉富広三

(なお、本年度は、マネジメント賞は該当無しとなりました)

JCOMM賞についての情報は、HPにも掲載しております。
各賞の概要や評価基準・詳細等はHPをご覧ください。
(<http://www.plan.cv.titech.ac.jp/fujiilab/jcomm.html>)

七月三十一日(金)、八月一日(土)に大分県別府市国際コンベンションセンター(ペーコンプラザ)で開催される第四回JCOMMまであと一ヶ月となりました。

初めての地方都市での開催となります。また、これまで皆様から頂いておりましたご要望を踏まえまして、今年度のJCOMMは、土木学会CPD(継続教育)プログラムとして申請し、認定を受けました(両日参加の場合13.5単位)。



日本モビリティ・マネジメント会議
ニューズレター

Vol.12 ● 2009.6.29

【発行】 JCOMM実行委員会
ニューズレター編集部
【お問合せ】 京都大学 藤井研
筑波大学 都市交通研
mail: jcomm@plan.cv.titech.ac.jp

MMに関連する会告掲載希望やご意見等、随時受け付けております。

加の場合(13.5単位)。
ぜひ参加の上、MMの情報交換の場としてご利用ください

参加申込方法

1)氏名、2)所属 勤務先、3)連絡先住所 eメールアドレスを明記の上、事務局まで

(jcomm@plan.cv.titech.ac.jp)

参加申込締切 七月十日(金)

参加費無料(資料代三千元)



第四回 JCOMM in 別府国際コンベンションセンター プログラム

1日目 7月31日(金)

09:30-	レジストレーション
10:00-12:00	開催地企画 地方都市におけるMM
13:00-14:50	オープニングセッション 開会挨拶・基調講演・JCOMM賞各賞授賞式
15:00-16:00	ポスター発表A(17編)
16:00-17:00	ポスター発表B(17編) ポスター発表A・B時間中、平成21年度JCOMM賞受賞者の展示も同時に行います。
17:00-18:00	口頭発表1(3編) 地域公共交通の活性化
18:30-	懇親会

2日目 8月1日(土)

08:30-	開場
09:00-10:00	口頭発表2(3編) 職場MM
10:00-11:00	口頭発表3(3編) 健康とMM
11:10-12:10	口頭発表4(3編) 『MM組織』のマネジメント
13:10-14:10	口頭発表5(3編) 『まちの賑わい』に資するMM
14:10-15:10	ポスター発表C(17編)、口頭発表ツール展示
15:35-16:35	口頭発表6(3編) MMにおける多様な可能性
16:35-16:55	クロージングセッション

開場時間中、平成21年度JCOMM賞受賞者の展示も同時に行います。

ポスター発表、口頭発表の詳細は、JCOMMのHPをご参照ください。(<http://www.plan.cv.titech.ac.jp/fujiilab/jcomm.html>)

ニッポンのMM

第十回

熊電利用促進のための大規模MM

今回は、熊本電鉄線(熊電)の利用促進を目的としたオプジェクトイブ指向の大規模で継続的な一連のMMプログラムを紹介しよう。

熊本電気鉄道株式会社は明治四十二年に創立された地方民鉄であり、バス事業と共に熊本市北部と合志市を広くサービスしている。しかし、昭和二十八年以降は赤字経営を強いられており、累積赤字額は二十数億円に上る。このような中、熊電は平成十六年六月に熊電藤崎宮線の軌道延伸による熊本市電への乗り入れ、システムのLRT化、並行バス路線のフィーダー化を骨子とする「熊本市電への乗り入れとLRT化によるサービス改善計画」を提案した。この計画が実現した場合、利用者は熊電単独区間だけでなく一万人二千人/日になると予測された。

この熊電の更なる利用促進を目的として、平成十七年度には旧西合志町全一萬二千世帯、十八年度にはその他の熊電沿線地域の七千三百世帯を対象に、事前調査とWave・1、Wave・3までの標準TFPに加えて、TFPの

長期持続効果を検証するWave・4から成る継続的な「西合志町のより良い交通のあり方」を考えるプログラム、「熊本電鉄沿線地域のより良い交通のあり方」を考えるプログラムを実施した。さらに、中心市街地のまちづくり団体である「すきたい熊本協議会」と共催して、「熊本電鉄の利用促進 都心結節とまちづくりを考える交通社会実験 クリスマス」は熊電に乗って街行こう」を実施した。当日は通常の三倍の利用者があった。

MMの効果は、利用手段変更に関するアンケート調査によって検証されることが多いが、ここではH十九年度の熊電駅間乗降実態調査を用いた。その結果、TFP受診を契機に熊電を利用するようになったと回答した乗客は一六五人で全乗客数三四〇四人の四八%にも達している。

(熊本大学・溝上章志)



図 熊本電鉄の利用促進・都心結節とまちづくりを考える交通社会実験の広報用ポスター

チープと呼ばれる地下鉄と、赤い二階建てバス有名なロンドンの公共交通網。今号は、公共交通の究極の広報手段とも言える、ロンドン交通博物館の紹介です。

最高の立地

ロンドンの交通博物館は、市内中心部有数の繁華街「サウエスターデンの一角」にあります。日本では交通関連の博物館と言えば、郊外の車両基地に隣接していたり、「博物館に行こう」と強く思わなければ訪れないような場所にあるイメージですが、ここロンドンでは、小さな路面店が



写真1 交通博物館の外観

交通局の歴史を、写真や図版、模型をたくさん使ったわかりやすく、平易な英語で綴っています(写真2)。



写真2 年代別の読み物型展示

まちと交通 vol.8 ロンドン交通博物館

秀逸なのは、体験型展示。最近ほどのような博物館でも、さわって体験して楽しめる展示の工夫が見られ、例えば交通関連の博物館では運転席への乗車体験、運転シミュレータなどの展示は、それほど珍しいものではないレベルであるように感じます。例えば、写真3は、よくあるロッカーでロンドンバスと並べて展示されています。何が入っているのでしょうか？



写真3 ロッカーとバス

ロッカーの中には、歴代のバス運転士・車掌の制服と帽子が入っていて写真4、それを着てバスの運転席に座れるのです！写真5は一九一九年のバストライバ、その隣のロッカーには一九四〇年の待避所誘導員(女性)、と言った具合です。バの前には、制服・制帽でなりきっている子どもがいました(写真5)。

の運転席に座る。気の利いた演出に、英国のワイルトを感じました。ミトジウム・ショップとブランドディング最後はカフェが併設されたミトジウムショップです(写真6)。チープ(地下鉄)、ロンドンバスなどのミトジウムショップは、ロンドンバスのファブリックを使ったカバン、チープ・ショップの洗練されたデザインをそのまま使ったタオル、マグカップ、そして充実した交通関連の書籍。大人も子どもも楽しめるショップとなっています。このような洗練されたデザインと充実したグッズの品揃えは、公共交通の「ブランド」を強化するために有効に働いているように感じます。ロンドンでは、チープやバスに乗ることこそが「Cool」、つまり「カッコイイ」のです。こうしたイメージ戦略も、モヒリティマネジメントでは大切な要素に違いなく、改めて感じました。



写真4 ロッカー内部



写真5 バス運転手になりきっている子ども

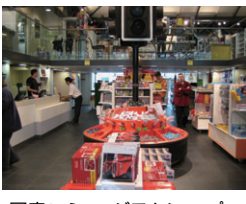


写真6 ミュージウムショップ